

穂 学

令和2年度

広州日本人学校 学校便り

[No. 15]

令和2年10月21日(水)

発行責任者 校長 喜屋武浩司

「すごい！全国書画展覧会で入賞多数！」

広州にも涼しい風が吹くようになり、すっかり秋らしくなってきました。日本でも秋に咲く花「金木犀（きんもくせい）」がやさしい香りを運んでいるとニュースで報じられていました。ここ広州でも、木犀科の「桂花」と呼ばれる花が咲いていますが、金木犀ほど香りは強くありません。

よく「実りの秋」と言われますが、食べ物ではなく、今号は本校の児童生徒の学習の成果（実り）を紹介したいと思います。

去る10月19日（月）、学校メールに嬉しい知らせが届きました。「第88回全国書画展覧会審査結果一覧」です。日本一の筆の生産量を誇り、「筆の里」として知られる広島県熊野町が運営するこの展覧会は、昭和6年から続いており、古い歴史と伝統を重ねています。毎年、全国の多くの学校から作品応募があり、平成14年からは海外の日本人学校からも広く出品を受け付けています。コロナ禍の中、今年も約2,600校、約112,000点の応募があったようです。



そのような中、本校も多くの児童生徒の作品を出品し、42名が書写の部で賞を頂き素晴らしい成果（実り）を残すことができました。海外特別奨励賞1点、特選1点、金賞10点、銀賞22点、銅賞8点です。入賞した皆さん、おめでとうございます。

- 海外特別奨励賞（小4、堀七海さん） ○特選（小6、山口愛生さん）
 - 金賞（小3、久住呂泉弥さん、古賀匠真さん、眞壁香帆さん）（小5、齋藤優椋さん、平野結菜さん）（中1、清水裕仁さん、澁井祐花さん、横瀬麗佳さん）（中2、東方若氷さん、中辻敦浩さん）
- ※銀賞と銅賞については学年通信でお伝えします。ご了承ください。

入賞した作品と賞状は後日送付されてきますが、海外特別奨励賞の堀七海さんの作品は、「羊」という課題の字を、紙いっぱいにくっきりとした線で表現した作品だったと、担当の諸井先生が話されていました。「絶対大きな賞を取るだろう」と確信があったということですから、広州のシンボル像「五羊」に似た力強さと優しさがあふれる作品だったに違いありません。

筆を持つことは、様々な伝統文化の基礎基本につながり、日本人の心の教育にもなると言われています。本校においても、心の教育の一環として、国語や書写の時間において、子どもたちの文字感覚を高め、文化芸術を広く奨励していきたいと考えています。

「芸術の秋」です。ぜひ、ご家庭でもお子さんと一緒に、筆を取って書に親しんでみてはいかがでしょうか。